

## 「つばさ南小学校」「つばさ北小学校」校歌作成方針（案）

### ○ 基本的なコンセプト

川島町の6つの小学校は、昭和29年に合併する以前に存在した6つの村に由来し、いずれも明治初期に設立した長い歴史を持っています。このようなことから、学校に対する地域社会の愛着は非常に深く、保護者や地域住民が総がかりになって学校づくりに関わる「地域に根ざした学校」です。

川島町では、この6つの小学校のうち4校を廃校し、新たに「つばさ南小学校」「つばさ北小学校」という2つの統合小学校を開校します。この校名に付けられた「つばさ」という言葉は、「子供たちの将来に対する期待感」を表すだけでなく、町の発展性にも由来しています。

そこで、統合小学校の校歌には、「つばさ」という校名の理由・由来だけでなく、「地域に根ざした学校」という良い伝統も、取り入れることとします。

### ○ 校歌作成方針

- ・ 「つばさ南小学校」と「つばさ北小学校」の歌詞・曲は、基本的に同じとする
- ・ 歌詞は、○番までとする
- ・ 児童（子供たち）の心にうったえることができ、地域住民（大人たち）の心も1つになれるような歌であること
- ・ 歌詞、音域、リズムについて、歌いやすいものであること
- ・ 前向きで、夢が持て、また元気が出るような歌であること
- ※ 校名の理由・由来を反映すること
- ・ 比較的、若い感性を取り入れた歌であること
- ・ 川島町の情勢、情景だけでなく、町の町民憲章や教育理念の趣旨なども考慮するものとする

## 参考資料1

### ○ 学校統廃合の経緯について

川島町の小学校は、昭和29年の合併前に存在した旧村（中山村、伊草村、三保谷村、出丸村、八ッ保村、小見野村）単位毎に1ずつ計6校設置されており、現在に至っています。いずれも明治初期に設立した140年以上の長い歴史を持つ、地域に深く根差した学校です。また、中学校は2校設置されています。

近年、少子化の進展に伴い、町の東に位置する三保谷小学校、出丸小学校、八ッ保小学校、小見野小学校の4校は、1クラスの児童数が1ケタ、男女の数にも不均衡が生じ、複式学級の編制まで予想されるようになりました。

このようなことから、小規模校における課題を解消するため、学校規模の適正化を図るべく、三保谷小学校、出丸小学校、八ッ保小学校、小見野小学校の4校を、平成30年3月に廃止し、同年4月に、三保谷小学校の位置に「つばさ南小学校」を、八ッ保小学校の位置に「つばさ北小学校」を設置することになりました。

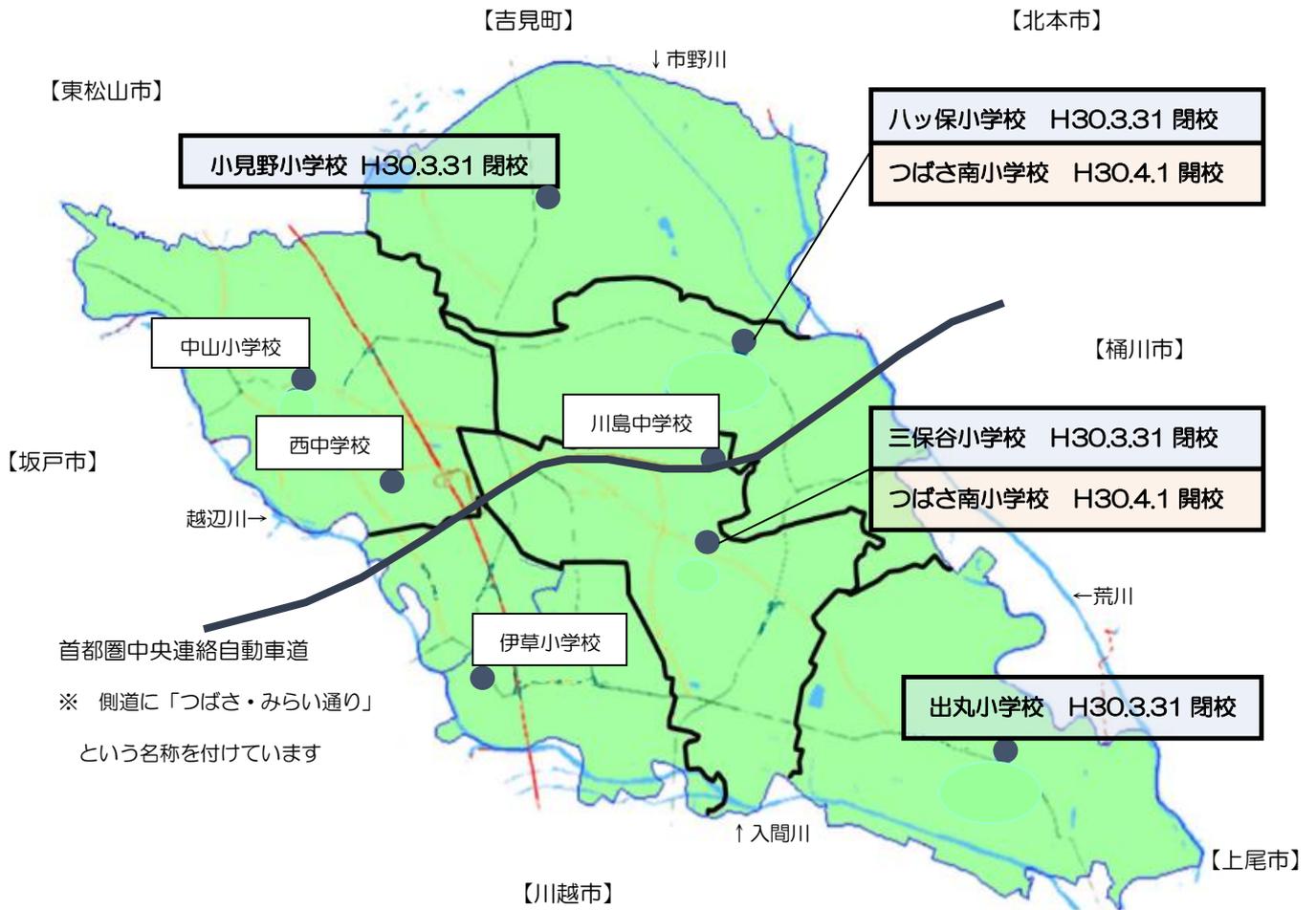
### ○ 校名の理由・由来について

未来を担う子どもたちが、「世の中に出て広く活躍してほしい」「川島町から世界に羽ばたいてほしい」という願いを「つばさ」という言葉に込めています。川島町立小学校規模適正化計画では、川島中学校と「つばさ南小学校」「つばさ北小学校」で小中一貫教育を推進することとしています。校名に含まれる「南」「北」は川島中学校から見た方位です。

また、首都圏中央連絡自動車道が町の中心を通り東西に伸びていく様子を、町から鳥の翼が広がるイメージととらえています。その側道が「つばさ・みらい通り」と名付けられていることにも由来しています。

参考資料2

○ 川島町地図及び小中学校の位置



～平成 29 年度	平成 30 年度～
三保谷小学校 平成 30 年 3 月 31 日閉校	つばさ南小学校 平成 30 年 4 月 1 日開校
出丸小学校閉校 平成 30 年 3 月 31 日閉校	
ハッ保小学校 平成 30 年 3 月 31 日閉校	つばさ北小学校 平成 30 年 4 月 1 日開校
小見野小学校閉校 平成 30 年 3 月 31 日閉校	

### 参考資料3

#### ○ 川島町はこんな町です

川島町は埼玉県ほぼ中央に位置し、北は市野川を境として東松山市・吉見町に、東は荒川を境として北本市・桶川市・上尾市に、南は入間川を境として川越市に、西は越辺川を境として坂戸市に接しており、まさに“川に囲まれた島”そのものといえます。面積は41.63km<sup>2</sup>で、東西間11km、南北間8kmの距離となっています。標高は平均14.5mで高低差はほとんどなく、かつては見渡す限り水田地帯でした。

この地域に集落を形成して生活を営むようになったのは奈良時代の少し前ごろからとみられており、町内にはそのころの様子がうかがえる「塚」や「塚の跡」が残っています。江戸時代になると川越藩の支配の中で農業生産が高まりましたが、反面、荒川の流れを現在の場所に変えたことで、たびたび水害に悩まされるようになりました。その後、時代が進むにつれ、河川改修や堤防の築造によって徐々に水害を克服してきました。

昭和29年、川島領と呼ばれる中山・伊草・三保谷・出丸・八ツ保・小見野の6か村が合併し、川島村が誕生。以後は中学校の統合や上水道の敷設など、積極的な村づくりを進め、昭和47年11月に町制を施行しました。

現在、首都圏中央連絡自動車道川島インターチェンジの開通に伴い、インター周辺開発が進み、町は変革のときを迎えています。



町の木 もくせい



町の花 はなしょうぶ



町の鳥 ひばり

## 参考資料4

### ○ 川島町民憲章

## 川島町民憲章

(昭和五十九年十一月三日制定)

わたくしたちのかわじまは 古く成り立ちの  
とき以来 住民の結束により発展してきました  
わたくしたちは このかわじままちをこよな  
く愛し 教養を高め スポーツに親しみ いっ  
そう住みよいまちにするため ここに町民憲章  
を定めます

- 一 かわじまを守る堤は  
心のきずな
- 一 かわじまを生かす  
きれいで豊かな自然
- 一 かわじまを築く力は  
働くこの手
- 一 かわじまの伝統受け継ぎ  
創ろう文化
- 一 かわじまの宝だ  
伸ばせ子供たち

### ○ 川島町教育大綱

## 川島町教育大綱

(平成28～32年度)

### 【教育理念】

『広い空、水と緑に恵まれた輪中の郷で、  
たくましく心豊かな人づくり』

町の総合振興計画にある「まちが人を育み、  
人がまちを育む活力と協働のまちづくり」の  
基本理念を、川島町民憲章にある「かわじまを  
守る堤は心のきずな」から連想し、「輪中の郷」  
という言葉で表現しました。

恵まれた自然環境のもとで、学校、家庭、  
地域が互いに手を取り合い一体となって、  
子供たちだけでなく大人も、  
豊かな人間性を育み、たくましく生きることを理念としています。

